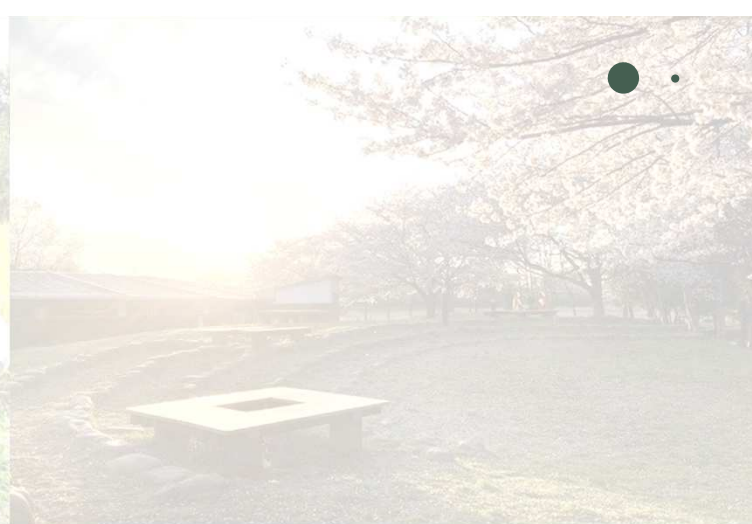


新しい村魅力アップ方針 と導入機能の考え方（案）

宮代町産業観光課



魅力アップの方針



新しい村の抱える課題のまとめ

機能・サービス

ご意見
踏まえて
加筆

宮代の自然と共生するデザイン

- 施設全体のリニューアル
- 既存の里山環境の保全・共生**
- 魅力的な自然に囲まれ、くつろげる空間づくり
- 子どもが自由に遊べる自然環境

既存機能の高質化

- トイレや駐車場を中心とした設備更新
- 選ばれる農作物としての質・量の確保
- 宮代ブランドを発信する直売所や里山景観を楽しめるカフェ等の飲食店機能の拡充
- ライト層の需要に応えるための直売所や家庭菜園・市民農園、加工施設の充実

コアユーザーに向けた機能強化

ご意見
踏まえて
加筆

- 専門性の高い農体験プログラムや農業教育の充実に合わせて、研修・実証用農フィールド等の拡充
- 宿泊施設需要に応えるための自然環境を活かした**滞在型の利用を促進する宿泊機能**の導入検討

プログラム

ご意見
踏まえて
修正

既存サービスの高質化

- 滞在型**の農体験プログラム等、多様な農へのニーズに対応したプログラムの充実
- 自然環境を活かした、通年でのプログラムや四季を感じられるイベントの充実
- 生産者も消費者も活動しやすいルールづくり
- 生産者と消費者の交流が促進されるしかけ

人材育成

ご意見
踏まえて
修正

農家・就農支援の強化

- 後継者不足解消、**遊休農地活用のための**マッチング機能の強化
- 就農者やライト層、子供等幅広いニーズに合わせた育成機能や農業教室
- 持続可能な農業の支援**
- 持続的な運営に向けたマネジメント人材の育成**

連携

ご意見
踏まえて
修正

地域資源との連携

- 東武動物公園等の周辺施設との連携の検討
- 遊歩道を生かした周回コースや、花見の場としての整備

PR

体験がイメージできるPR

- インターネットなどからの情報アクセス性の強化**
- 積極的なPR戦略の検討
- 活動やイメージを伝えるキャッチコピーの検討

魅力アップのために必要なポイント

1

宮代の自然と
共生するデザイン

山崎山や水田などの**宮代の里山の環境**を守りながら、ゆとりある自然の中での時間を満喫し、ウェルビーイングを向上させるデザイン性の高い空間づくり

ご意見
踏まえて
修正

2

既存機能・
サービスの高質化

既存の機能（直売所、カフェ、体験農園、市民農園等）の高質化や**滞在型、通年型等のサービスの充実**による家族で遊びに来ることができる施設としてのポジションの確立

ご意見
踏まえて
修正

3

コアユーザーに
向けた機能強化

趣味的に農に触れている人のステップアップや将来的に就農を希望する人等、コアユーザーとなる層に向けた、農関連機能の導入による**機能強化**、類似施設との差別化

ご意見
踏まえて
修正

4

農家・就農支援
の強化

農家に向けた生産活動支援や**多様なニーズに対応する農業教育の強化、就農支援**による持続可能性の高い農の実現

ご意見
踏まえて
修正

5

地域資源との連携

東武動物公園や笠原小学校、桜並木などの宮代町の持つ地域資源との連携

6

体験がイメージ
できるPR

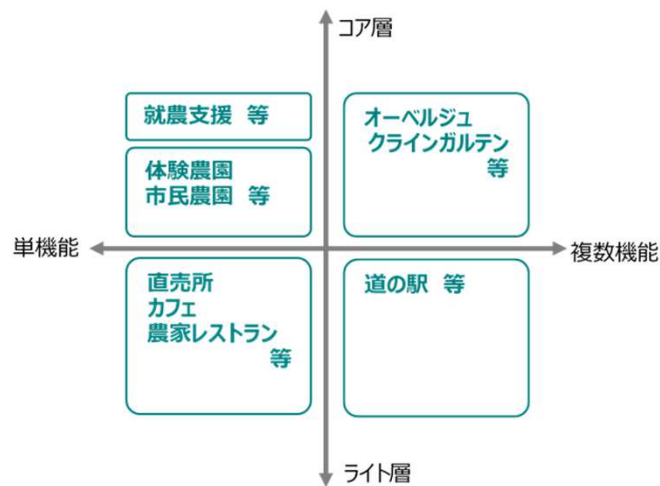
施設や利用のイメージができるキャッチコピーの作成及び**web集客の強化等によるPR戦略**

ご意見
踏まえて
修正

狙うべき市場内のポジショニング

セグメンテーション

- 農体験関連市場を、提供する機能が単一か複数か、コア層向けかライト層向けかで細分化



市場の再分化

ターゲティング

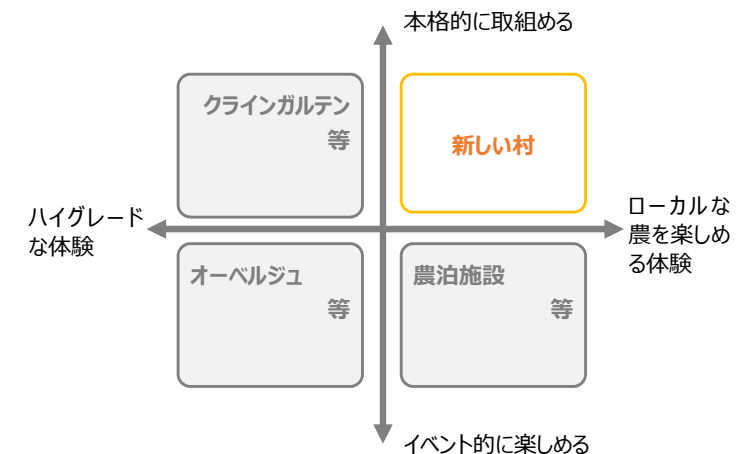
- ニーズの高い既存の機能を活かしつつ、競合の少ない、コア層を取込む機能を含む複数機能を有する農体験市場をターゲットとする



再分化した中からターゲットを設定

ポジショニング

- 都心部からのアクセス性を活かした本気で挑戦するにも通いやすく、それでいて宮代らしいローカルな自然環境・農資源を楽しめる特徴を活かした、ポジショニングを図り、競争優位性を高める

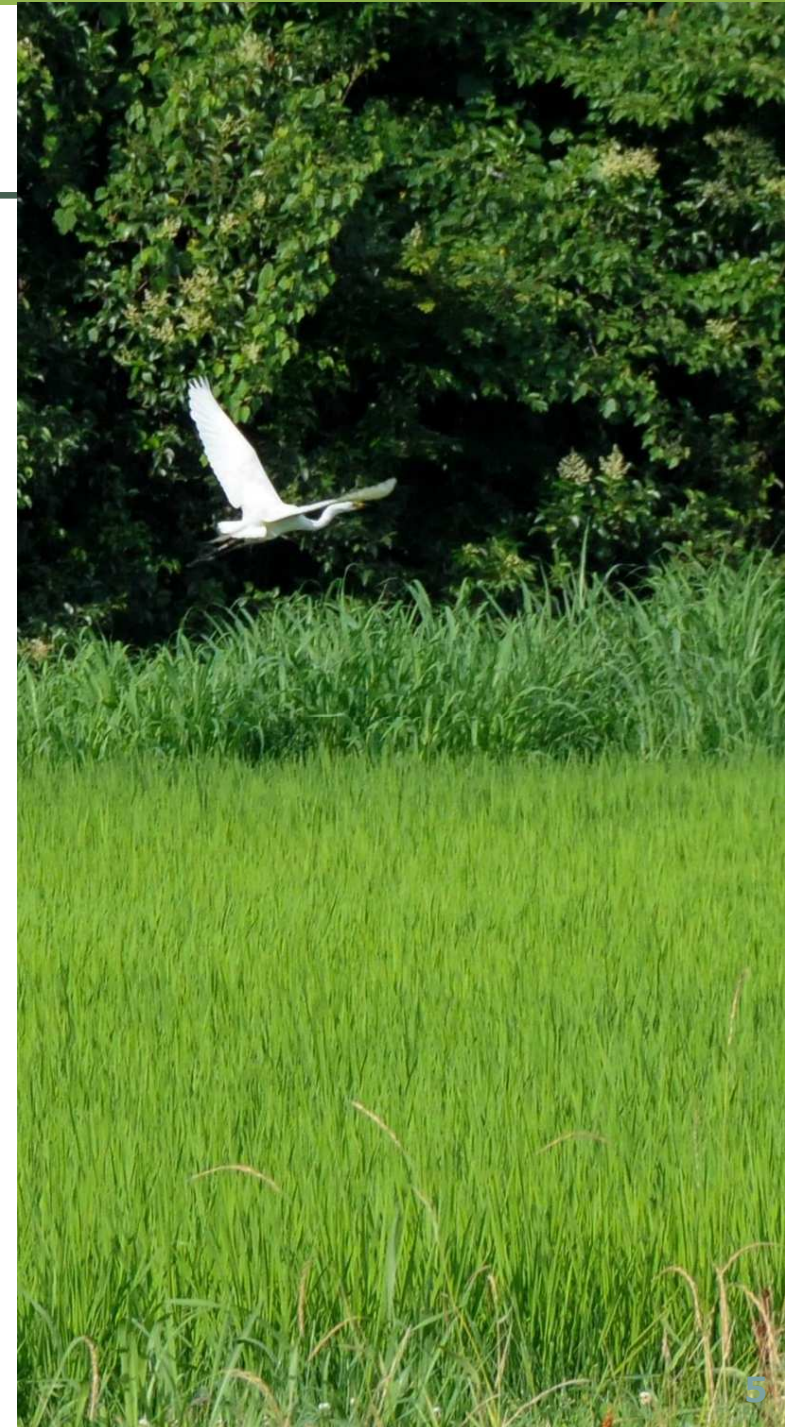


ターゲットの中でのポジションを明確化

コンセプト（案）

本気で取組む、気軽に楽しむ 農体験フィールド

- 従来の、宮代の資源や農資源を活かした地域コミュニティの交流及び観光拠点としての機能を維持・強化するとともに、本気で農を志す人を応援するために、趣味としてのステップアップや将来の就農につながる支援機能を強化・導入し、必要に応じて耕作放棄地や遊休地を活用した敷地の拡大を図ることで、都市部からも通える豊かな自然環境の中で、ライト層からコア層まで農を実践できる、体験フィールドとして整備を進めます。



魅力アップ方針（案）

1 宮代の自然と共生するデザイン

2 既存機能・サービスの高質化

3 コアユーザーに向けた機能導入

4 農家・就農支援の強化

5 地域資源との連携

6 体験がイメージできるPR

方針 1：農にチャレンジできる、楽しめる場の形成

- これまで提供してきた、農体験や市民農園等の既存機能の充実・高質化を図るとともに、都心部からのアクセス性を活かして、**就農に向けた試行・研修や環境に配慮した農にチャレンジできる場**として、機能強化を図ります。
- これまで継承されてきた里山を保全し**、豊かな自然の中での時間をより楽しめるように、宿泊機能の**検討**や周辺施設との連携強化により**自然と共生した**滞在型の利用促進を図ります。

ご意見
踏まえて
修正

方針 2：安心・快適に利用できる**自然と共生した**空間づくり

- 老朽化する施設・設備の**予防保全的な**修繕・更新や**利用しやすい直売所へのレイアウトの見直し**を図るとともに、バリアフリー化、ユニバーサルデザインにより誰もが安心して快適に利用できる施設に更新します。
- デザインコードを設定し、各施設やサイン等を統一したデザインを採用し、豊かな自然環境と**共生した**映える施設として更新します。

ご意見
踏まえて
修正

方針 3：周辺施設との連携とPR力の強化

- 名前やどういった場であるかをまず知ってもらうために、**ターゲットを設定した上で**、キャッチコピーの設定やPRを戦略的に展開します。
- 東武動物公園や笠原小学校、無印良品等の周辺施設との連携によりエリア全体としての更なる魅力アップを図ります。

ご意見
踏まえて
修正

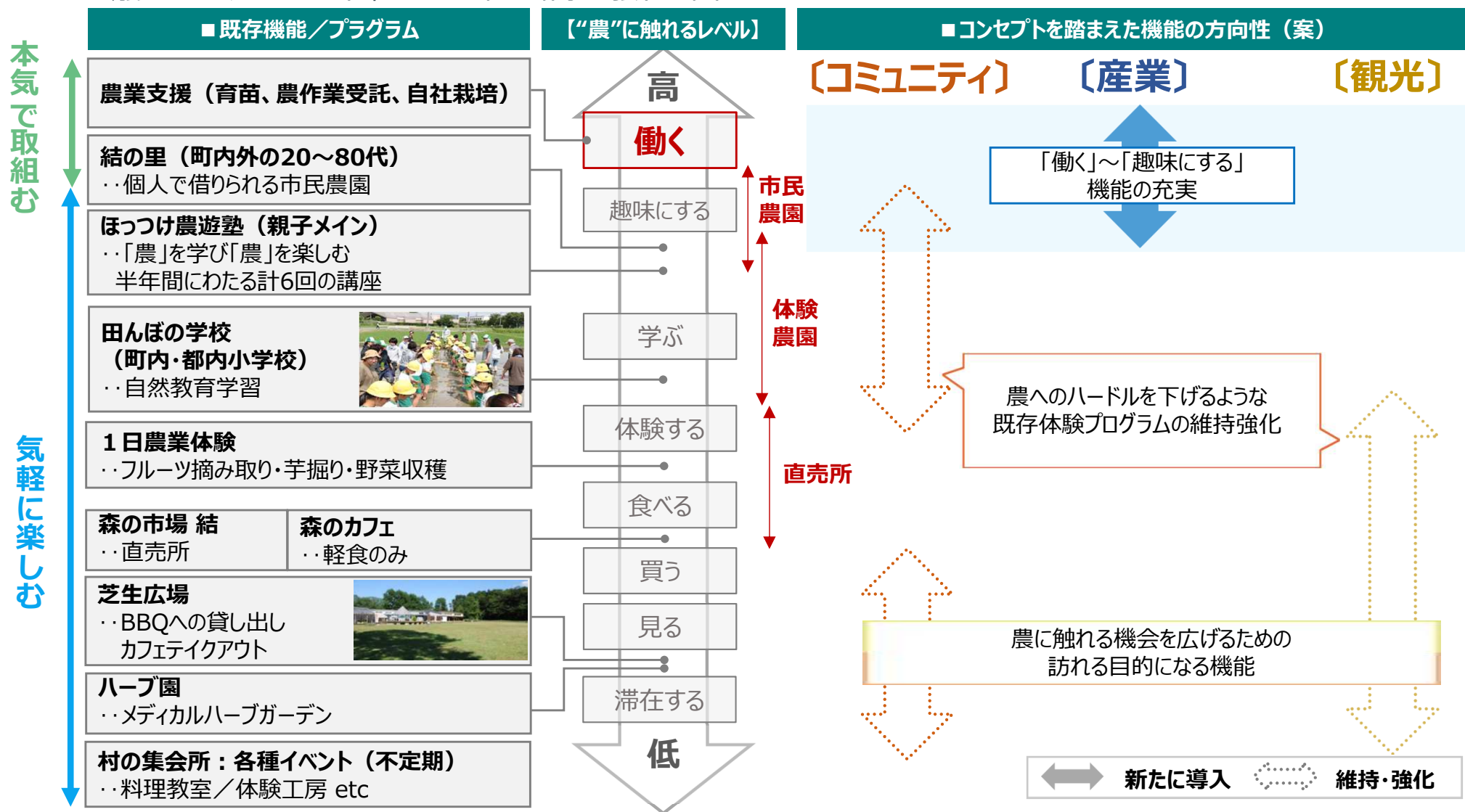


導入機能とゾーニングプラン（案）



機能の強化・導入の考え方

- 農に触れるレベルの違いから既存機能を整理し、強化する方向性を整理。高いレベルの機能を新たに導入するとともに、農に触れるきっかけとなる付随的な機能の維持・強化を図る。



機能の強化・導入の考え方

維持・強化 新規導入



認知度 UP 地域連携・PR

機能の強化・導入に向けた方策（案）

“農”に触れるレベル		公共機能	I 期（短期）	II 期（中長期）※将来的に実施を検討する方策
本気で取組む	高	アグリ部門（育苗等）	✓ 作業受託の継続	✓ ライスセンターの設備更新
		アグリ部門（農作業受託）	✓ 育苗施設の設備更新	✓ その他農業関連施設の増設
	働く	農業教育・研修機能	✓ 指導者の育成 ✓ 研修園場の整備	✓ 研修用施設の整備 ✓ 新規就農者向け荷捌き場の整備
		結の里 個人で借りられる市民農園	✓ 有機農業講座等の実施 ✓ 市民農園區画の再編・増設	✓ 農の家・農機具庫の設備更新
	趣味にする	ほっつけ農遊塾	✓ 通年型・滞在型の農体験・自然教育プログラムの充実	✓ プログラムの充実に合わせた農体験フィールドの拡張
	学ぶ	田んぼの学校 自然教育学習	✓ 体験農園（果樹園）の拡張	✓ 施設更新にあわせた施設の移設・集約化
	体験する	1日農業体験 フルーツ摘み取り・芋掘り・野菜収穫	✓ 宮代産の農産物を活用したメニュー開発 ✓ 厨房、販売スペースのレイアウト再編・改修	✓ 施設更新にあわせたカフェの拡張・農家レストランの整備
	食べる	飲食サービス（森のカフェ）軽食のみ	✓ プライベートブランドの開発 ✓ 売場レイアウトの再編	✓ 施設更新にあわせた直売所の拡張 ✓ 駐車場の集約化・拡張
	買う	森の市場 結 直売所	✓ 講座や体験プログラムの充実	✓ 施設更新にあわせた加工施設の導入
		加工機能	✓ 芝生広場のキャンプサイト利用の実証実験 ✓ 講座や体験プログラムの実施	✓ 屋外トイレの整備 ✓ 滞在・宿泊案内窓口の設置
気軽に楽しむ	見る	ハーブ園 メディカルハーブガーデン	✓ 芝生広場のBBQ場としての活用 ✓ 芝生広場や村の集会所を柔軟に利用できる仕組みづくり	✓ 施設更新にあわせた施設の移設・集約化
	滞在する	滞在・宿泊機能	✓ じゃぶじゃぶ池の整備	
		芝生広場 BBQへの貸し出し、カフェテイクアウト		
		村の集会所：各種イベント 料理教室／体験工房 etc		
認知度UP		観光周遊促進	✓ 周辺施設との連携	✓ 観光窓口機能の設置 ✓ 回遊を促す動線の環境整備
		情報発信	✓ PR戦略の実行 ✓ キャッチコピーの設定	

※参考：現況図



※参考：20年後のゾーニングイメージ（たたき台）

